

# Operation Manual

## 取扱説明書

## キャリア RTF600-7

型式記号：AR-5500M-1  
適用製造番号：GD5032, GD5050, GD5051

この取扱説明書を読んでから操作してください。  
この取扱説明書はいつでも読めるよう、運転室内に保管してください。

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: [www.heydownloads.com](http://www.heydownloads.com) by clicking the link below



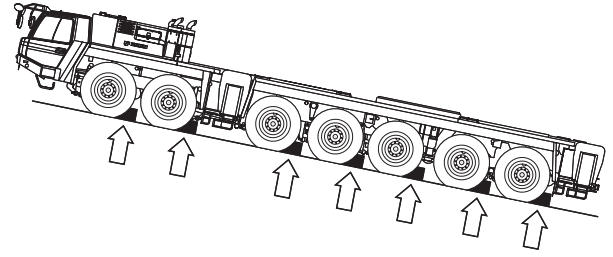
- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

# MEMO

### •やむを得ず傾斜地に駐車するときは歯止めを

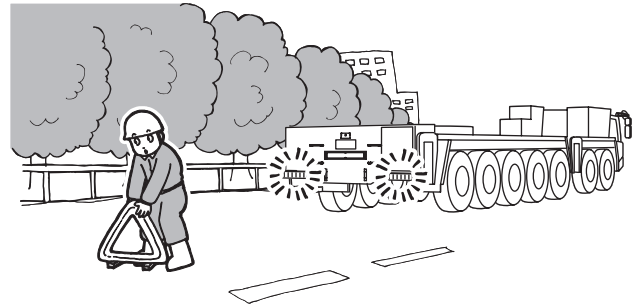
やむを得ず傾斜地に駐車するときは、機械を斜面と平行に駐車してください。そして、機械が逸走しないようにパーキングブレーキを掛け、タイヤに歯止めをしてください。



F01239-000

### •故障時など路上に駐車するときは安全措置を

故障時など路上に駐車するときは、夜間でも他の通行車両からはっきりと確認できるように旗・柵・点滅灯、および停止表示器を設置してください。また、他の車両や歩行者の通行を妨げないように駐車してください。

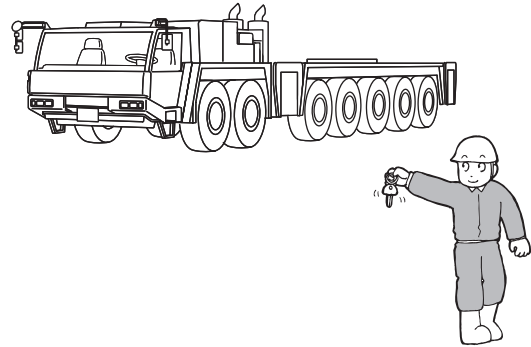


F01240-000

### •機械を離れるときは

エンジンをかけた状態やスタータスイッチのキーを付けた状態で機械を離れると、他の人に機械を動かされる恐れがあります。機械を離れるときは、次の措置をしてください。

- 平坦な場所に駐車してパーキングブレーキを掛けてください。
- すべてのブレーキおよびロックを掛けてください。
- エンジンを停止して、スタータスイッチからキーを抜いてください。
- すべてのドアおよびカバーに施錠してください。



F01241-000

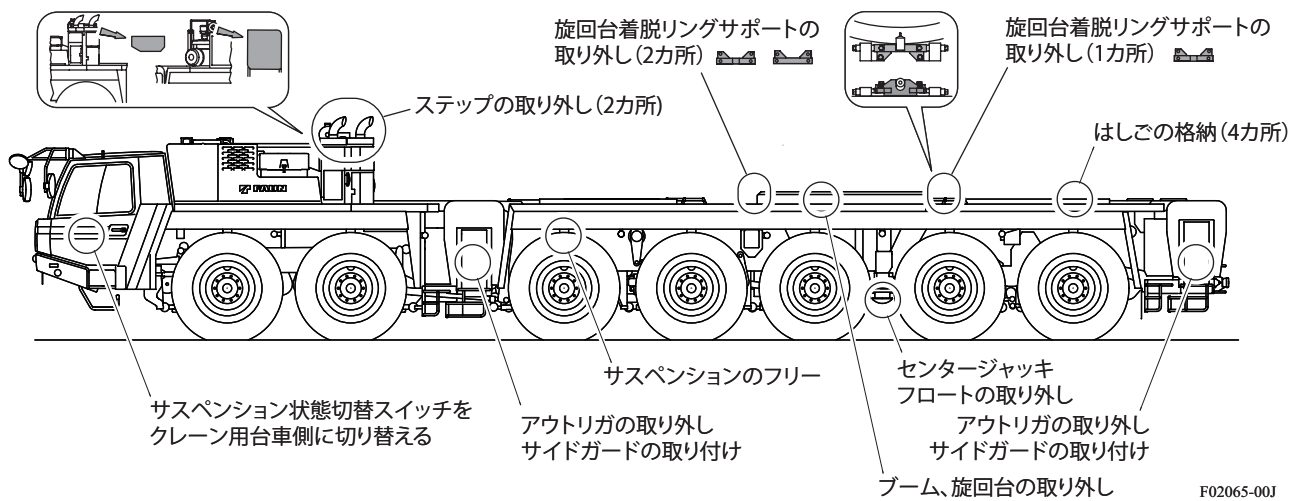
## 走り出す前に

### 走行姿勢の確認

#### ⚠ 危険

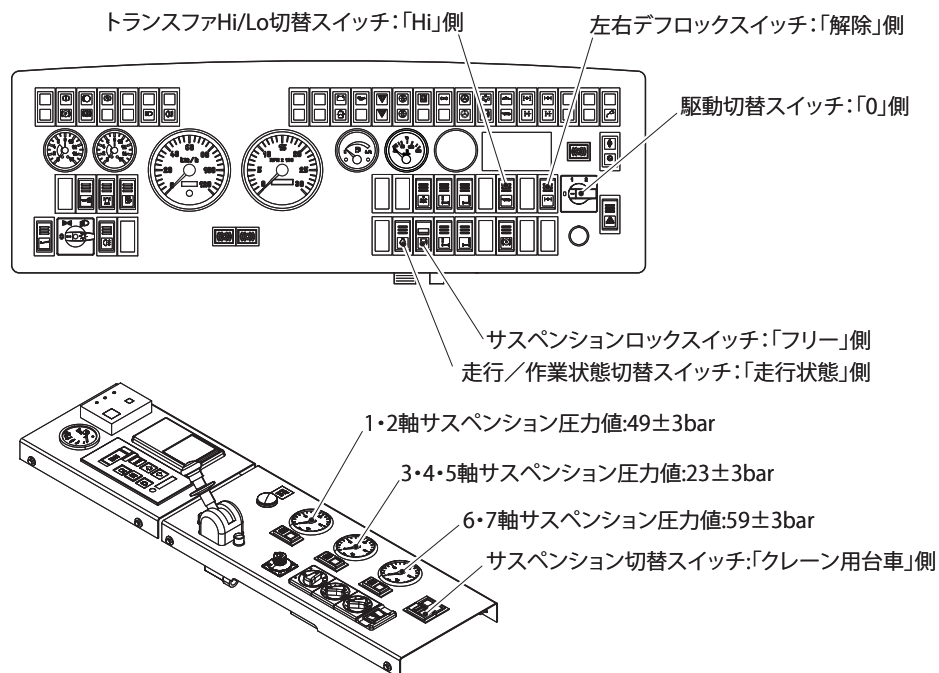
走行姿勢以外での道路走行を禁止します。道路走行時は、ブーム、旋回台、アウトリガ、センタージャッキフロートを取り外してキャリアのみで走行してください。ブーム、旋回台、アウトリガ、センタージャッキフロートおよびカウンタウエイトはトレーラなどで、別送してください。ブーム、旋回台、アウトリガ、センタージャッキフロートおよびカウンタウエイトを取り外さないで走行すると、法令違反だけでなく、重量オーバーのために思わぬ機械の損傷を起こします。またフックやブームが振れたり、アウトリガビームが伸びると、重大事故を起こします。走行姿勢を守ってください。

道路を走行する前に正しい走行姿勢にしてください。



F02065-00J

### 走行装置の状態



F01261-00J

## 計器

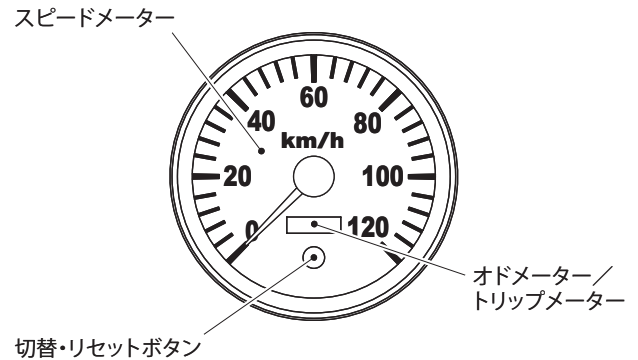
### スピードメーター

車両の走行速度を km/h 単位で示します。

### オドメーター（積算距離計）／ トリップメーター（区間距離計）

走行した総距離、および区間距離を km 単位で示します（右端の数字は 100m 単位を示します）。

切替・リセットボタンを押して表示を切り替えます。



F00055-00J

### 切替・リセットボタン

オドメーター／トリップメーターの表示を切り替えます。

3 秒以上押すと、トリップメーターの表示を「0.0」に戻します。

### タコメーター

#### 重要

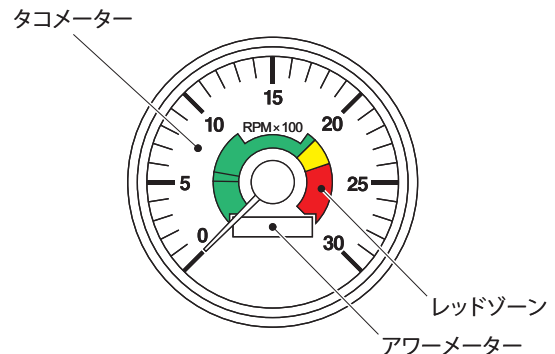
指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンが損傷する恐れがあります。特に長い下り坂を降りるときは、フットブレーキで減速するなど注意して運転してください。

毎分のエンジン回転数を示します。

- ☞ エンジン回転数が  $2,350\text{min}^{-1}\{\text{rpm}\}$  を超えると、エンジン故障警告灯が点灯し、エンジン／ステアリング故障警報ブザーが鳴ります。
- ☞ エンジン回転数が  $2,800\text{min}^{-1}\{\text{rpm}\}$  を超えると、エンジンブレーキが自動的にかかります。

### アワーメーター

エンジンの稼働時間を示します。



F00056-00J

## エンジンの始動

### 警告

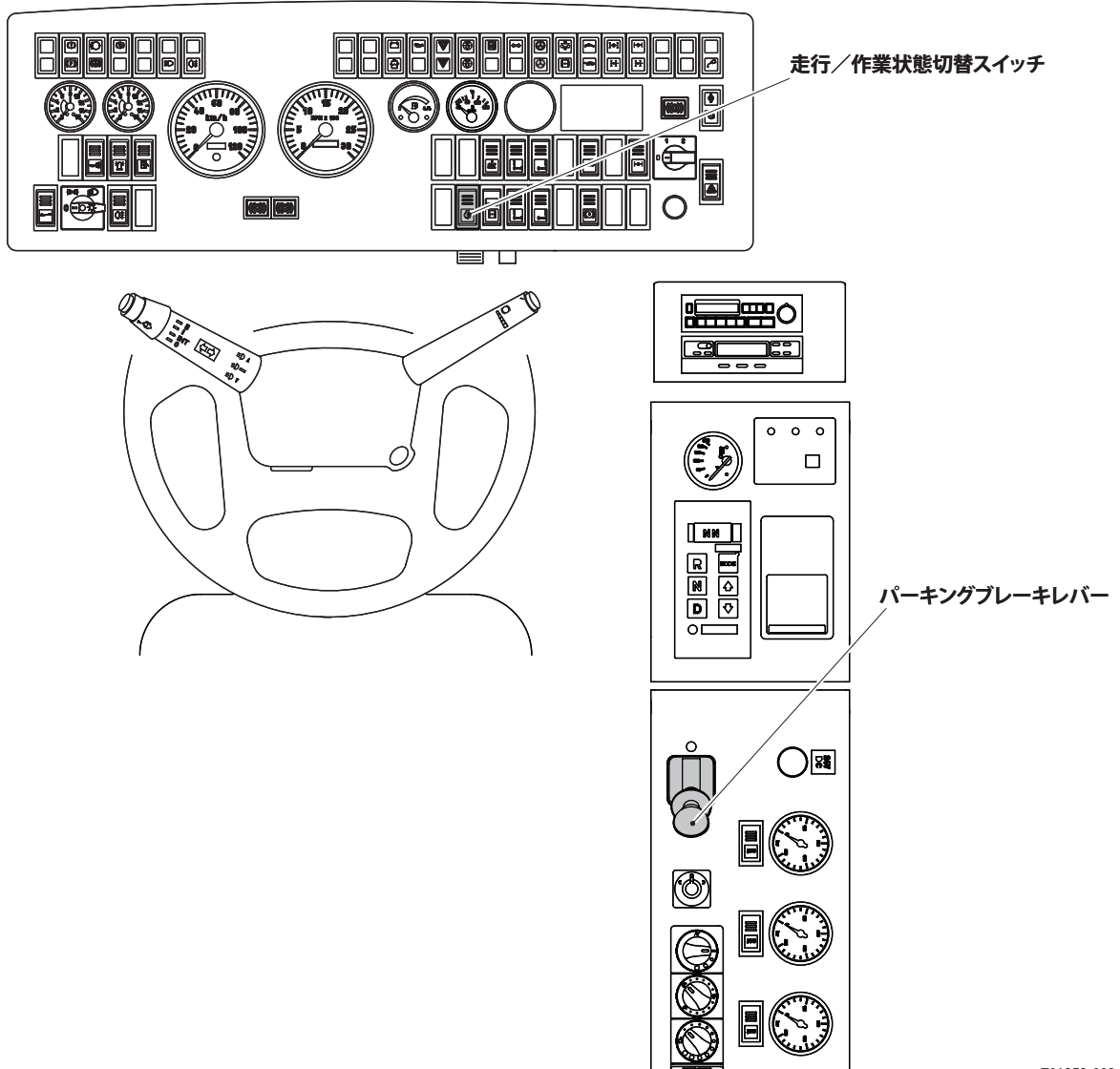
- 車外からエンジンを始動しないでください。事故の原因になります。運転席に座って、エンジンを始動してください。
- 換気の悪い場所では長時間エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こす恐れがあります。

### 重要

エンジン回転中にバッテリーメインスイッチを「OFF」にしないでください。  
電子機器に悪影響を与えます。

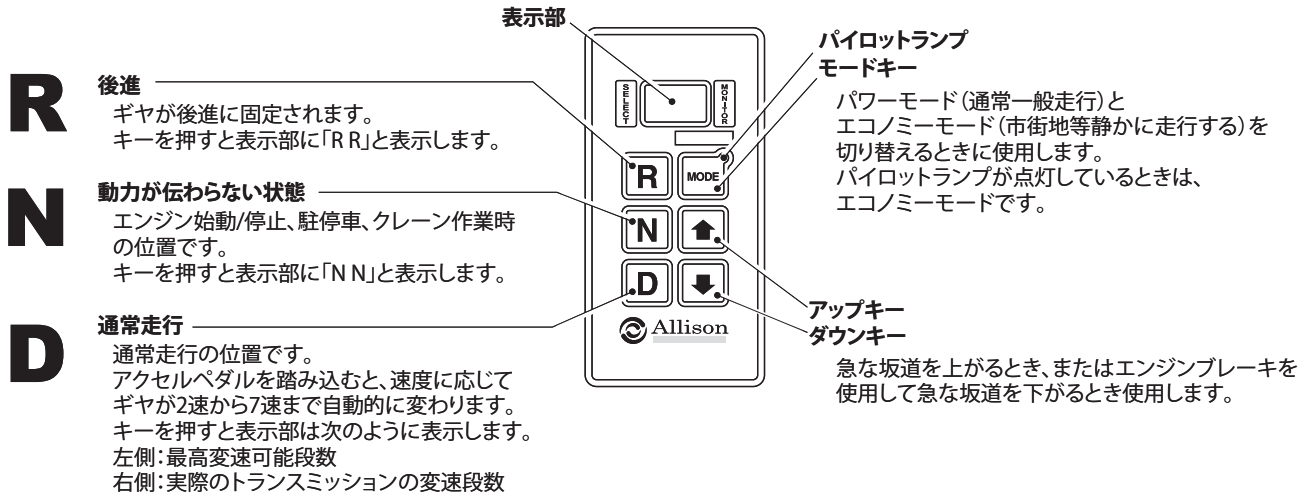
#### 1. エンジンを始動する前にレバー、スイッチを次の状態にします。

- 走行／作業状態切替スイッチ：「走行状態」側
- パーキングブレーキレバー：「PARK」側



F01273-00J

RTF600-7\_04-3J



F01359-00J

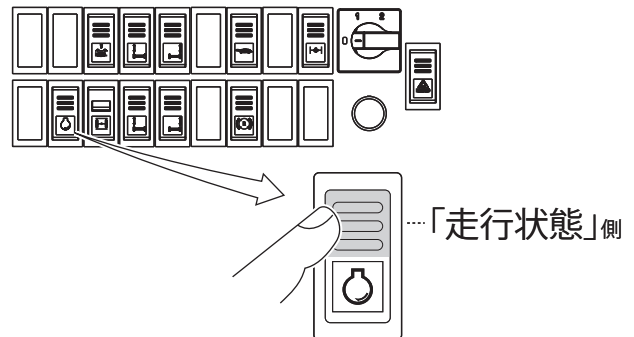
## シフト操作

### 発進時のシフトボタン操作

**⚠ 警告**

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトスイッチ操作をしないでください。車が急発進し、事故の恐れがあります。
- シフトボタンを入れると、クリーブ現象で車両が動こうとします。ブレーキペダルを踏んで、車両が動かないようにしてからレバーを操作してください。

1. 走行/作業状態切替スイッチの「走行状態」側を押します。



F01360-00J

## 流体リターダ操作

### 警告

雪道や凍結した路面ではリターダを使用しないでください。リターダ作動時にタイヤがスリップし、事故の原因になります。

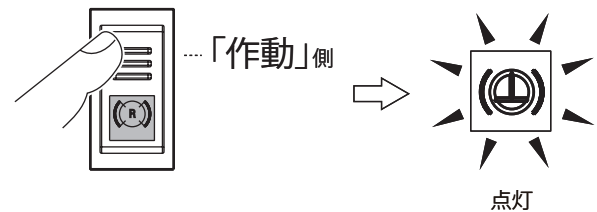
### 重要

- 流体リターダ作動中に流体リターダ作動シンボルが点滅するときは、流体リターダが故障しています。ただちに車両を停車して、タダノ指定サービス工場へ連絡してください。
- 急な降坂路で流体リターダを使用すると、トルクコンバータの油温が急激に上昇することがあります。走行速度に応じたシフト位置にして、フットブレーキおよびエンジブレーキを併用して、トルクコンバータ油温計の適正温度範囲で走行してください。
- 流体リターダ使用時、短時間であればトルクコンバータの油温が 150℃に達しても問題ありません。ただし、このときエンジン冷却水温が 95℃を越えないように注意してください。

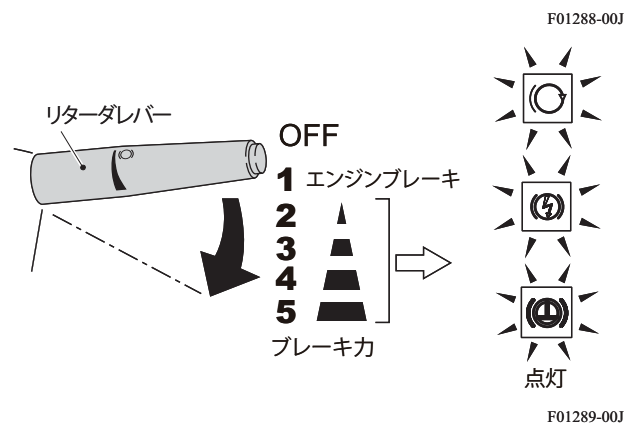
シフトスイッチが「N」、および車両停止状態では、流体リターダは作動しません。

流体リターダはフットブレーキの補助として使用します。制動時はリターダを適宜併用し、フットブレーキの使い過ぎを防止してください。

1. 流体リターダスイッチの「作動」側（上側）を押します。



2. リターダレバーを図の方向に操作します。
  - エンジブレーキ表示灯、流体リターダ表示灯および電磁リターダ表示灯が点灯します。
  - シフトが 3 速以上のとき、エンジブレーキおよび電磁リターダと同時に作動します。
  - 「2」～「5」の位置で流体リターダが作動します。



3. アクセルペダルから足を離します。
  - エンジブレーキ、電磁リターダおよび流体リターダが作動します。

7. 各サスペンション圧力計の指示圧力が右表の数値になっていることを確認します。
8. クレーン用台車状態で道路走行するときは、次の「軸重調整操作」を行ってください。

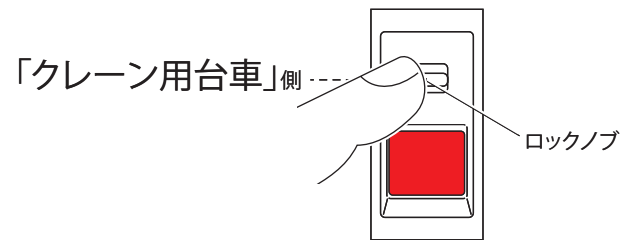
	指示圧力 (3個の圧力計とも)
クレーン構内移動姿勢	約 150kgf/cm <sup>2</sup> {bar}
クレーン用台車状態	約 50kgf/cm <sup>2</sup> {bar}

F01328-00J

## 軸重調整操作

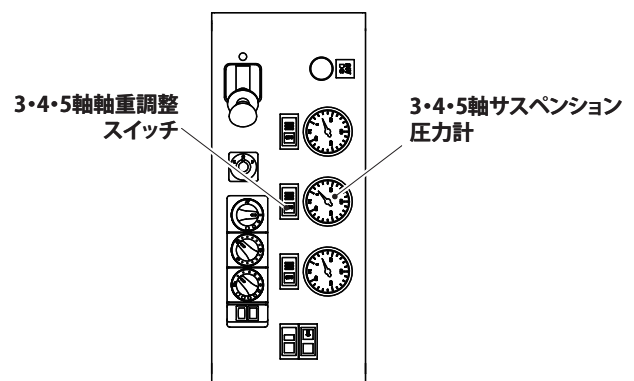
本クレーンキャリアはクレーン部を架装した状態で、各軸重が規定数値になるように設計しています。クレーン部を外すと、各軸重の配分が変わります。したがって、道路走行前に規定の軸重配分になるよう軸重を調整する必要があります。調整は軸重調整スイッチとサスペンション圧力計を使用して行います。

1. 前述の「サスペンションレベリング(車高調整)操作」に従って車両を水平にします。
2. サスペンション状態切換スイッチ「クレーン用台車」側にします。



F01329-00J

3. 3・4・5 軸軸重調整スイッチを押して、3・4・5 軸のサスペンション圧力を調整します。
4. 3・4・5 軸サスペンション圧力計の指示圧力が右表の値になったら、スイッチから手を離します。
  - ☞調整時、エンジン回転はアイドリング状態にしておいてください。
  - ☞サスペンション圧力計の指示圧力が右表の値に達するのに3分程度かかることがあります。



	指示圧力
3・4・5軸	約 23±3kgf/cm <sup>2</sup> {bar}

F01330-00J

## クルーズコントロール操作

### 警告

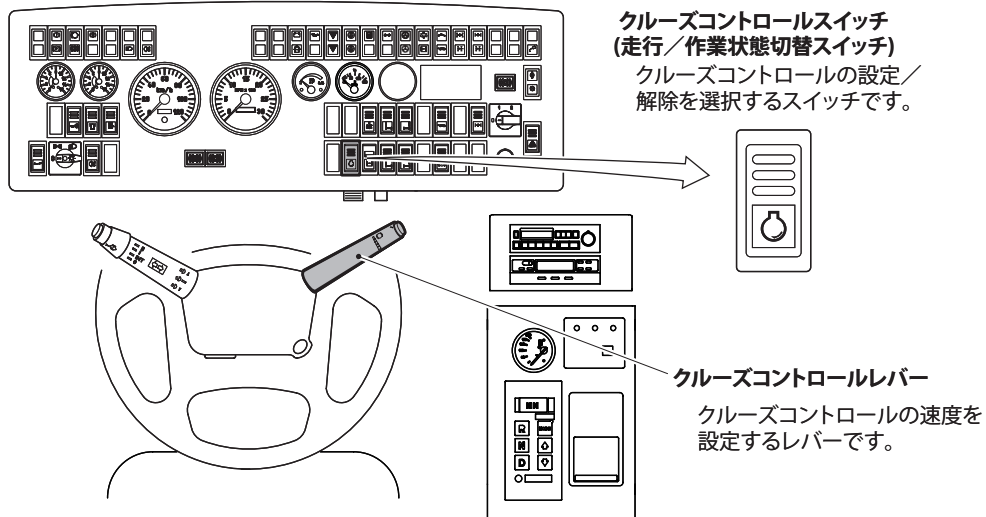
- 見通しが悪い道路や混雑している道路では使用しないでください。重大な交通事故を起こす恐れがあります。
- 雪道や凍結した路面では使用しないでください。タイヤがスリップし、事故の原因になります。

アクセルペダルを操作せずに設定した速度で走行できます。

約 38km/h 以上で速度を設定できます。

上り坂では、エンジン能力の限界で走行速度が設定速度よりも落ちることがあります。

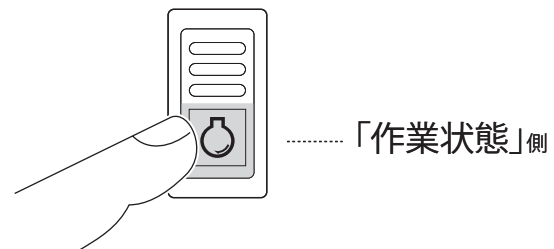
下り坂では、エンジンブレーキの制動力を超えたときに設定速度よりも速く走行することがあります。



F01290-00J

### クルーズコントロール切り替え

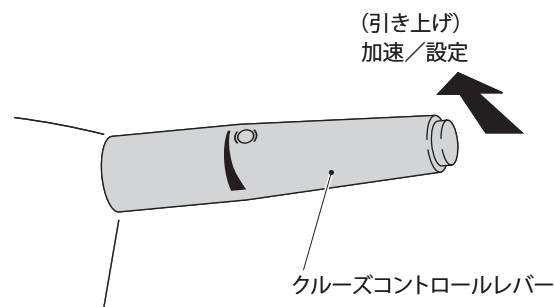
1. 38km/h 以上になるまで加速します。
2. クルーズコントロールスイッチの「作業状態」側を押します。
3. 希望速度まで加速します。



F00182-000

4. クルーズコントロールレバーを「加速/設定」側に倒します。
  - 現在の速度が設定されます。

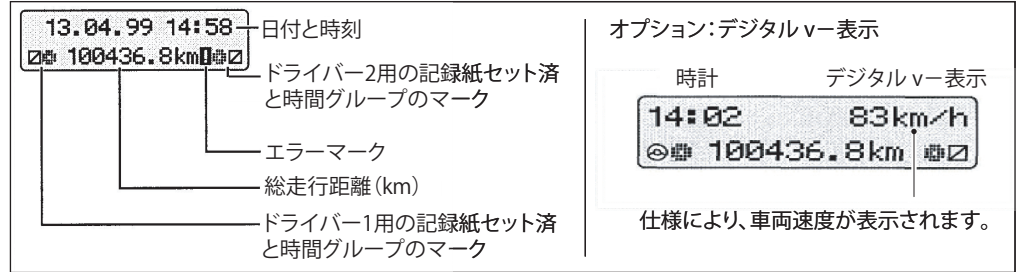
設定後にアクセルペダルを踏むと加速しますが、離すと設定速度に戻ります。



F00130-00J

## 各部の名称と機能

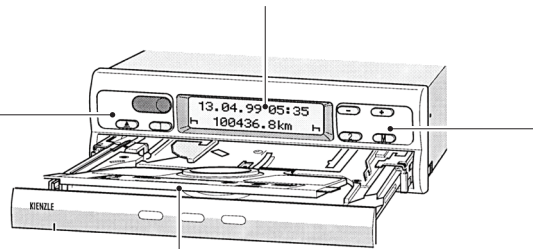
### ストレート式トレイ



#### 表示画面

基本画面が常に表示され、メッセージが自動的に表示されます。

- 左側キーパッド
- ▲ トレイロック解除キー
  - ① 時間グループ調整キー (ドライバー1用)



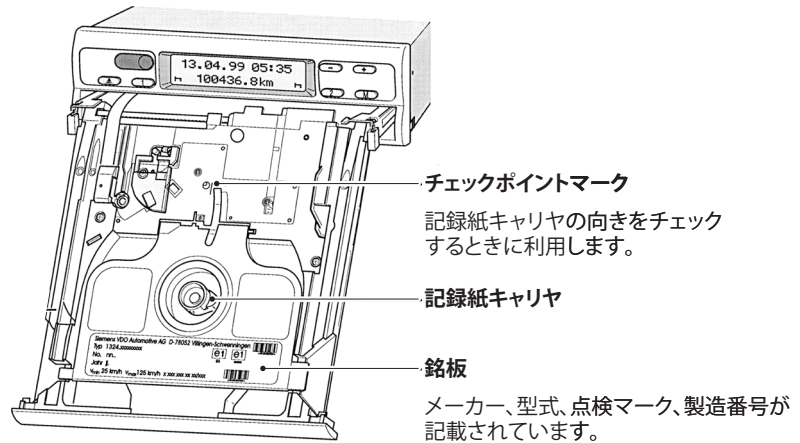
#### セパレータ

ドライバー1・2用の記録紙を分離します。

#### 右側キーパッド

- ② 時間グループ調整キー (ドライバー2用)
- M 機能選択キー
- + 調節キー
- 調節キー

### ヒンジ式トレイ



F00218-01J

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: [www.heydownloads.com](http://www.heydownloads.com) by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

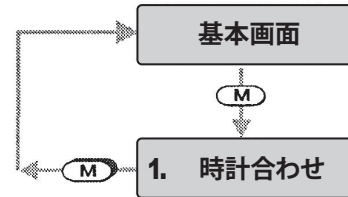
## 時計合わせ

### 重要

- 記録紙をセットした状態で時計合わせをすると、エラーマークが表示され、時刻表示が点滅します。
- タコグラフの記録紙キャリアの調整をしてください。

時計合わせ機能は、車両が停車している場合のみ選択できます。

キャリアと時刻を同期させるときは、タコグラフの中の記録紙を全て取り除いてから、スタータスイッチを「ON」にしてください。



- =キーを押す  
 =キーを2秒以上押す

F00232-00J

1. を押します。  
• 時計合わせメニューが表示されます。
2. または を押します。  
• 分表示が点滅します。
3. または を押して、分を設定します。
4. を押します。  
• 時表示が点滅します。
5. または を押して、時を設定します。  
日付は午前0時を経過すると、自動的に調整されます。
6. を2秒以上押します。  
• 時計合わせが終了し、基本画面が表示されます。

1. 13.04.99 15:00

1. 13.04.99 15:00

1. 13.04.99 15:28

1. 13.04.99 15:28

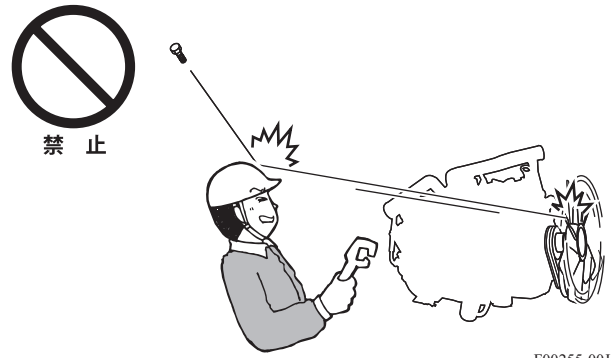
1. 13.04.99 14:28

13.04.99 14:28  
H 100436.8km H

F00233-00J

### ・点検・整備はエンジンを停止して行う

エンジン回転中に回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服などが巻き込まれ、思わぬけがをする恐れがあります。エンジンを停止してから機械を点検してください。



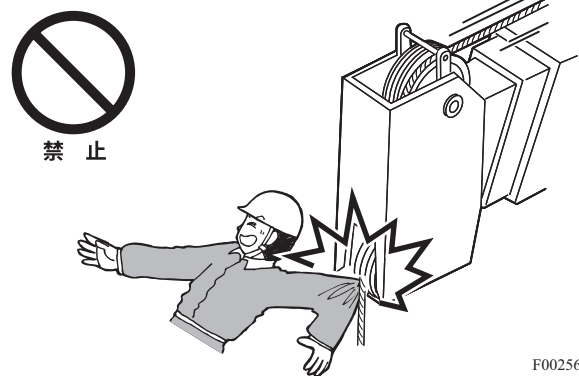
F00255-00J

### ・動く部分には近寄らない

誤って機械を動かされたり、動いている部分に触れると、機械に挟まれたり、巻き込まれたりして非常に危険です。

やむを得ず機械を動かして点検・整備を行うときは、ブーム・起伏シリンダ・ウインチ・ファン・ファンベルト・プロペラシャフトなどの可動部には近寄らないでください。また、誰も近づけないでください。

可動部の近くで作業しなければならないときは、手や衣服が可動部に触れないよう細心の注意を払ってください。

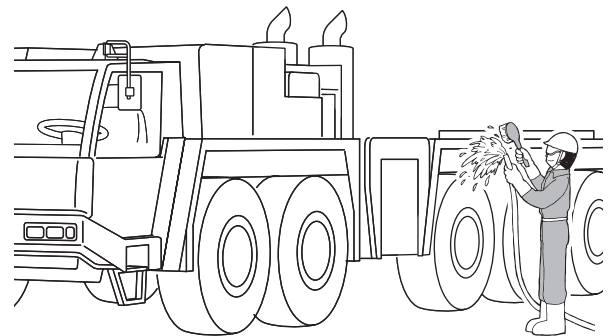


F00256-00J

### ・機械を洗浄してから点検・整備

機械が汚れていると不具合箇所の発見が困難になるだけでなく、作業時にゴミが混入しやすくなります。また、ほこりや泥が目に入ったり、足が滑ってけがをする危険性があります。

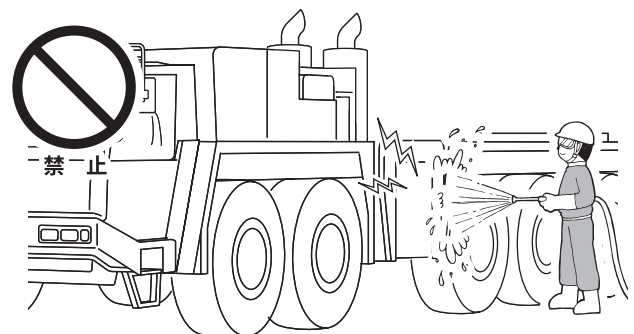
点検・整備をする前に、機械を洗浄してください。



F01245-000

### ・洗車時の注意

高圧洗浄禁止箇所に水をかけると、ショートして故障する恐れがあります。高圧洗浄禁止箇所には水をかけないでください。



F01246-00J

## 重要定期交換部品（ゴム部品等）

自動車部品のうち、安全上重要なゴム部品等の材料は経時的に変化して寿命が低下します。定期点検時における点検では、その後、いつまでも安全に使用できるか予測しにくいものです。安全運転を確保するためにも、次に定めている時期で定期交換してください。ゴム類を交換した場合はメンテナンスノートに記入し、点検整備管理に役立ててください。

装置名	部品名	定期交換時期	備考
かじ取り装置	パワーステアリング用油圧ホース	4年	
	パワーステアリング装置のゴム部品		
動力伝達装置	ラバーダンパー		
原動機	フューエルホース	2年	
	エンジン冷却水用ホース（リターダホース含む）	3年	
空気圧発生装置	エアコンプレッサ用ゴムホース		
制動装置	ブレーキホース	2年	
	ブレーキ用機器のゴムおよびパッキン		
	ブレーキチャンバのダイヤフラム		
	ブレーキチャンバ	4年	
	ストップランプスイッチ	2年	
緩衝装置	サスペンション用ゴムホース	4年	
	サスペンションシリンダのゴム部品		

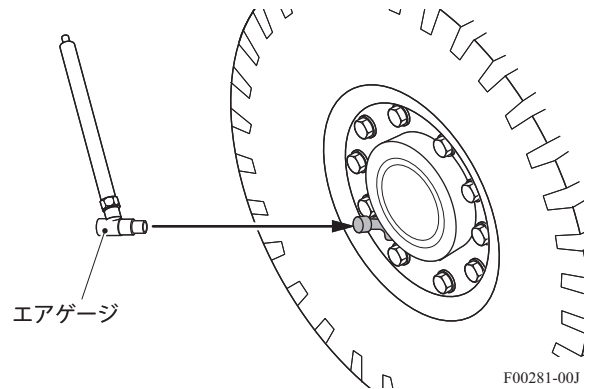
## タイヤの状態

### ⚠ 警告

タイヤのエア圧は、走行前のタイヤが冷えているときに調整してください。  
エア圧に過不足があると、タイヤが損傷したり、事故の原因になります。

### タイヤのエア圧

1. タイヤのエア圧をエアゲージで点検します。
2. エア圧が不良のときは、標準エア圧に調整します。
3. エア圧の測定後およびエア充てん後、バルブキャップを取り付けます。

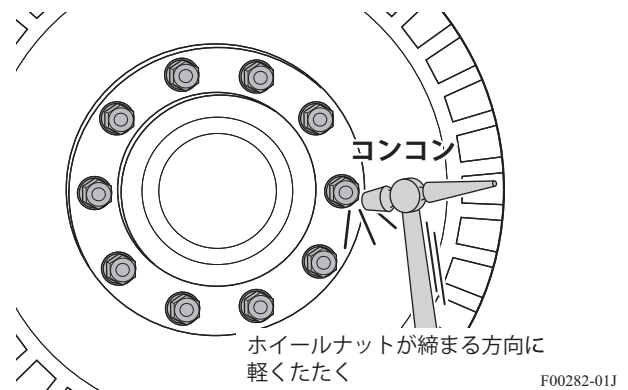


### ホイールナットの緩み、ホイールの亀裂

### ⚠ 警告

亀裂があるときは、走行しないでください。重大事故の恐れがあります。

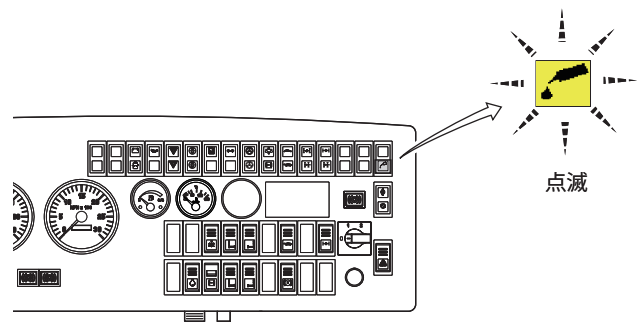
1. ホイールナットをハンマーで軽くたたき、緩みがないか点検します。
2. ホイールに亀裂がないか点検します。
3. 緩みや亀裂があれば、整備します。



## 集中給脂装置の作動点検

設定した時間、間隔で集中給脂装置が作動しているか点検し、集中給脂シンボルが1秒間隔で点滅していることを確認します。

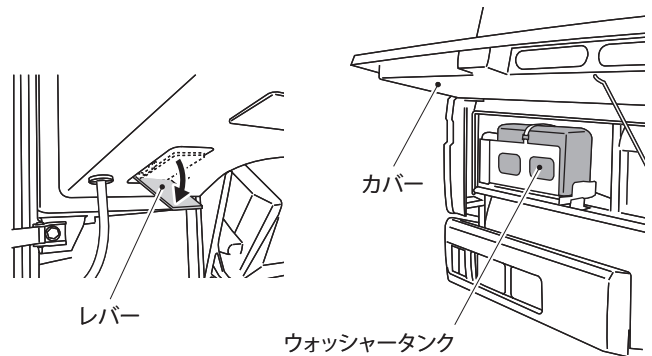
3秒以上の間隔で点滅したり連続点灯するときは、タダノ指定サービス工場にて整備を受けてください。



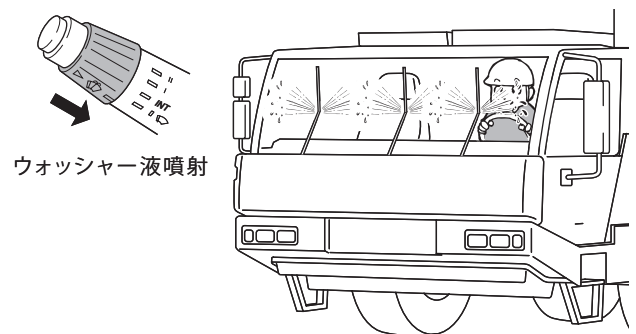
F01377-00J

## ウォッシャーの液量、噴射状態

1. 運転席左下のレバーを下げ、フロントバンパー上部のカバーを開きます。
2. ウォッシャー液の量が不足していないか点検します。
3. 不足していれば、ウォッシャータンクにウォッシャー液を補充します。
4. ウォッシャー液を噴射させ、噴射の向きおよび高さが適当か点検します。
5. ウォッシャー液があるのに噴射しないときは、ノズルの詰まりが考えられます。ノズルを針で清掃し、詰まりを取り除きます。
6. 清掃しても噴射しないときは、ポンプなどの故障が考えられますので、タダノ指定サービス工場にて整備を受けてください。



F00917-00J



F00300-00J

## 給脂装置の作動モニター

給脂装置の作動状態をコントロールパネル部の赤色LEDと緑色LEDで表示します。

### 正常運転時

バッテリースイッチとスタータスイッチを「ON」にすると給脂装置が作動して、赤色LEDと緑色LEDが1.5秒間点灯します。

### 異常時

赤色LEDが点滅するときは、タダノ指定サービス工場で整備を受けてください。

## ジョイント、ホースの点検

### 重要

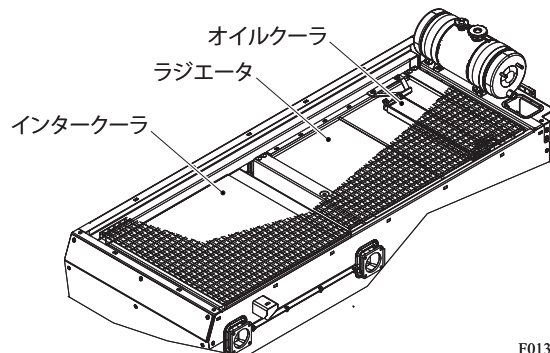
- ほこりが侵入しないように注意してください。動作不良の原因になります。
- 清掃するときは石油系（灯油、軽油等）を使用してください。  
トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンは使用しないでください。

### 点検

給脂箇所のジョイントやホースが割れたり摩耗していないか点検します。  
汚れていれば清掃し、不良があれば交換します。

## ラジエータ清掃

ラジエータ上部の格子を取り外し、圧縮エアまたはハケで清掃します。

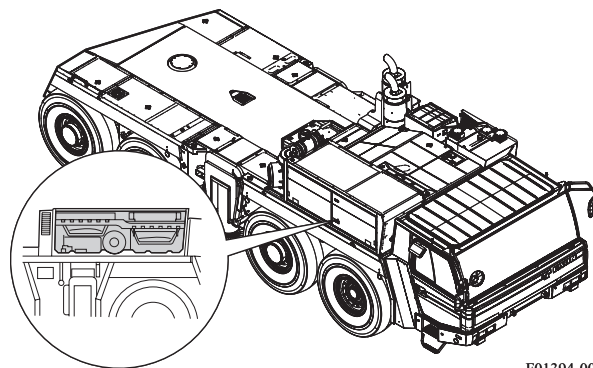


F01393-00J

## 冷却水ホース、吸気ホース

### 点検

ラジエータ側面のカバーを開け、各ホースがしっかり固定されているか、水漏れ、エア漏れがないか点検します。



F01394-000

## アクスル

### デファレンシャルギヤ油量点検

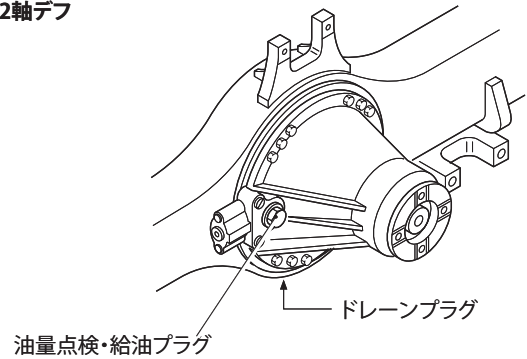
1. アウトリガを張り出し、機械を水平に設置します。
2. 油量点検・給油プラグ穴から油量を点検します。プラグ穴の下端まで入っていれば適量です。不足していれば、プラグ穴よりオイルが流れ出るまで補充します。

### デファレンシャルオイル交換

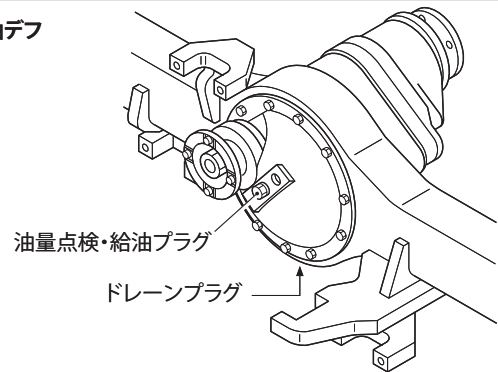
タダノ指定サービス工場に依頼してください。

1. アウトリガを張り出し、機械を水平に設置します。
2. 油受けを用意します。
3. 油量点検・給油プラグを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外してオイルを抜きます。
5. ドレーンプラグとシール面を洗浄します。シール面が損傷しているときは、新しいシールリングと交換します。
6. ドレーンプラグを取り付けます。
7. 油量点検・給油プラグ穴からオイルが流れ出るまで給油します。
8. 油量点検・給油プラグを取り付けます。
9. 数分後に油量を点検し、不足していれば補充してください。この作業を油量が安定するまで繰り返します。

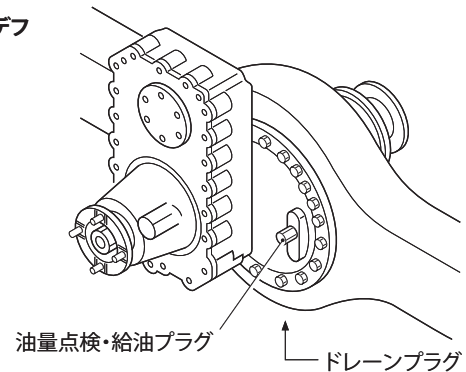
第2軸デフ



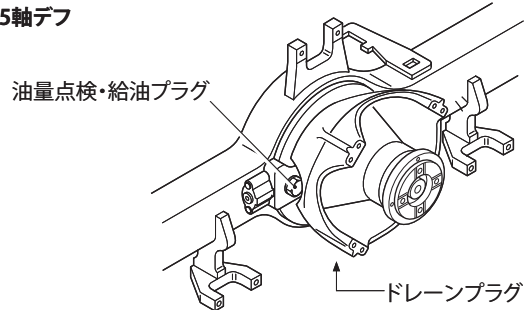
第3軸デフ



第4軸デフ



第5軸デフ



F01397-00J

## サスペンション

### 警告

車両の下に誰もいないことを確認して操作してください。不用意にサスペンションを操作すると重大な人身事故の原因になります。

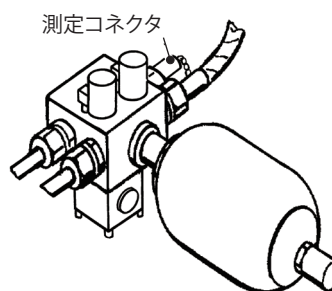
### 作動油交換後の整備

作動油を交換したときは、システムが正常に作動しているか、圧力は正常か点検してください。バルブ、スリーブ、コネクタから油漏れがないか、油圧ホースに亀裂や損傷がないか点検してください。

### アキュムレータのガス圧点検

タダノ指定サービス工場に依頼してください。

1. 車高スイッチで車高を完全に下げます。
2. エンジンを停止します。
3. アキュムレータの測定コネクタにホースを接続します。
4. アキュムレータの残留オイルを排出します。
5. アキュムレータのガス圧を点検します。



F01193-00J

# 電気システム

## 整備表

項目	日常 点検	点検・整備間隔					備考
		100h	300h	600h	1,200h	2,400h	
		1 カ月	3 カ月	6 カ月	1 年	2 年	
電装品	バッテリーの点検		●				
	バッテリーターミナル端子給脂						(*1)
	オルタネータの点検				■		(*2)
	スタータの点検				■		
	灯火装置および方向指示器の 作用点検	●					
	ランプ類の清掃、外観点検	●					(*3)
	タコグラフの点検 ヒューズ				■		(*4)

(\*1)：必要に応じて

(\*2)：Vベルトの張り具合を点検

(\*3)：汚れているとき、早めに

(\*4)：溶断時

■：タダノ指定サービス工場に依頼してください。

☐☐☐バッテリーの点検要領は、別冊のバッテリー取扱説明書を参照してください。

☐☐☐オルタネータ、スタータの点検要領は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

## バッテリーの点検

- ・バッテリー液のレベルを目で定期的にチェックしてください。  
バッテリー液のレベルは極板の上端から 10～15 mm ほど上にしてください。  
必要なら蒸溜水を補充してください。その後 30 分ほど待ってから液の比重をチェックしてください。
- ・個々の電池の比重を計るには比重計をお使いください。

## オルタネータ、スタータの点検

タダノ指定サービス工場に依頼してください。

## 灯火装置および方向指示器の作用点検

### ランプ類の清掃、外観点検

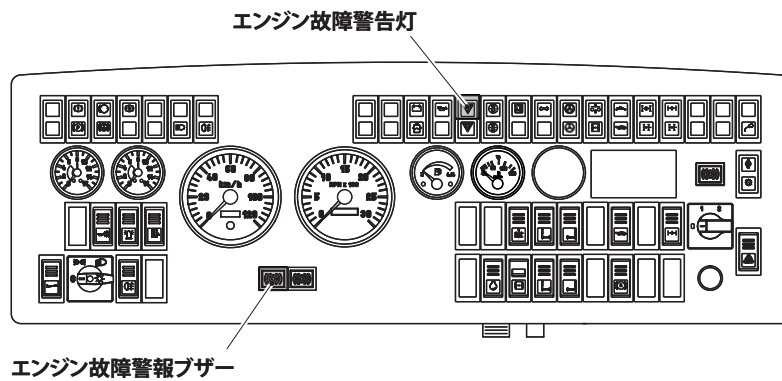
作用点検およびランプ類の汚れ、損傷がないか点検してください。

故障の状況に応じて、次の項目を記載しています。

- エンジンに不具合が生じたとき
- トランスミッション操作ができないとき
- エンジンがかからない／止まらないとき
- オーバーヒートしたとき
- 燃料切れしたとき
- バッテリーがあがったとき
- けん引されるとき

## エンジンに不具合が生じたとき

エンジンに故障が発生すると、エンジン故障警告灯が点灯し、エンジン故障警報ブザーが鳴ります。ただちに安全な場所へ移動してエンジンを停止してください。

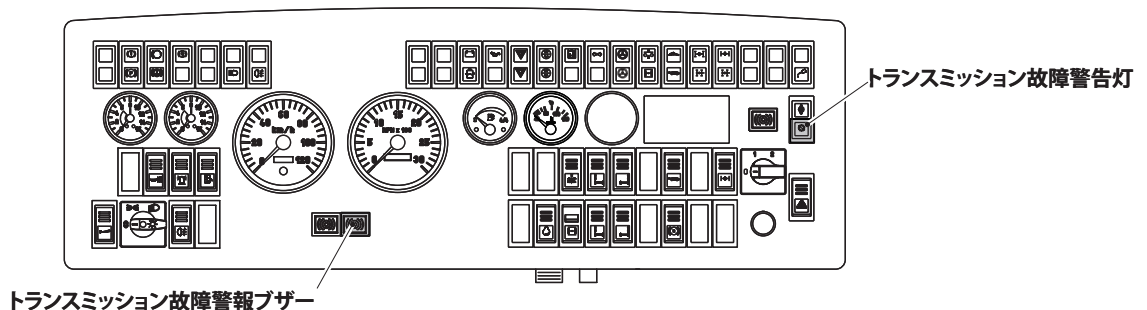


F01409-00J

## トランスミッション操作ができないとき

トランスミッション制御システムが故障すると、トランスミッション故障警告灯が点滅し、トランスミッション故障警報ブザーが鳴り、トランスミッション操作ができなくなります。

ただちに安全な場所へ移動してエンジンを停止してください。



F01410-00J

# MEMO

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: [www.heydownloads.com](http://www.heydownloads.com) by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL